

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2792500163		
法人名	株式会社ユーアイプラチナ		
事業所名	アイフロント神田		
所在地	池田市神田3丁目2-2		
自己評価作成日	平成30年1月20日	評価結果市町村受理日	平成30年3月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	平成30年2月16日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<p>当施設、アイフロント神田の「その人の今を大切に！そして笑顔に！！」の理念を、スタッフ一同念頭に置きご利用者の思いや、気持ちに寄り添ったケアを心がけています。 ご利用者にとって、居心地がよく、施設においてご本人が必要とされているとの思いを持って頂けるよう、様々な事柄に協力を求め、実践を心がけています。 ご利用者に常に細やかな気遣いや心配りが出来、毎日笑顔で過ごすことをスローガンに、日々ケアをしています。なお、スタッフが働きやすく、話しやすい環境作りに努めています。</p>
--

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>当ホームは1ユニット9名という少人数の利点を最大限活かして、利用者・家族と職員は在所帯の家族であるとして利用者一人ひとり寄り添い「その人の今を大切に！そして笑顔に！！」の理念の実現に向けて夫々の暮らし方の思いや希望を汲み取り、笑顔で楽しく過ごせるように管理者を先頭に日々努めている。日頃から家族の訪問は多いが、開設時から運営推進会議には利用者・家族および職員のほぼ全員が参加し活発な意見・提案がなされているのはその現れであり、特筆に値する。利用者の平均介護度は2.2と低く元気な人が多いので、夫々の能力と希望に合わせ日々の掃除機・雑巾がけや洗濯物たたみ・食事の後片付け等の役割を担っており、また地域の行事やホーム周辺の清掃・イベント等に揃って参加して地域との交流に努めている。管理者と職員のコミュニケーションは良く研修の充実も図っている。</p>
--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 1 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その人の今を大切に！そして笑顔に！！」の理念をリビングに掲げ、ご利用者の思いに寄り添い、日々安心して楽しく過ごせる施設づくりを心がけている。	事業所理念「その人の今を大切に！そして笑顔に！！」をリビング正面の壁に大書して張り出している。入所案内や運営推進会議レジメにも記載している。職員は理念の実践を通じて利用者が日々生き甲斐のある楽しい暮らしが続けられるように心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	当施設が町会に入会し、地域の情報や回覧板などを回して頂いている。地域のまつり等の行事に利用者さん及び職員と一緒に参加させて頂き、地域の方々と交流するように心がけている。	町会に加入し、利用者と職員と一緒に猪名川花火大会・盆踊り・秋のダンジリ等の地域行事に参加して地域との交流を図っている。ホーム周辺の清掃をしたり、地域の中学生の福祉体験学習・書道や歌等のボランティアを受け入れて地域貢献と交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎朝、管理者が近隣の歩道等の清掃をさせて頂いている時や、利用者さまの散歩のさい、地域の方とご挨拶を交わしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年間6回(2ヶ月に1度)の運営推進会議を、ご家族及び、市町村の担当職員の方に参加して頂き、開催している。お仕事をされているご家族に参加していただきやすいよう、土曜、もしくは日曜日に開催し、施設の事柄を報告した上で質疑やご意見を頂きケアに活かしている。	2ヵ月毎年6回、行政から介護保険課職員、地域から知見者として出入りの薬局員および利用者・家族夫々5~7名・職員ほぼ全員の大勢が参加して開催している。利用者および職員の状況、行事報告・予定等ホームの運営状況を報告し、意見・提案を受けて運営に活かしている。	開設時から運営推進会議を重要視し、利用者・家族・職員の参加は極めて多い。一層の地域密着型サービスの推進の為に、自治会・老人会の代表・民生委員・介護相談員等の地元代表の参加を強く期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	池田市民間型事業所連絡会IGHIに参加させて頂き、池田市の介護保険課にも些細なことでもお尋ねし、様々なお話をさせて頂いている。	市の窓口である介護保険課職員とは日頃から緊密に連絡を取り、ホームの運営状況を報告し、意見やアドバイスを受けている。民間型事業所連絡会にも出席し、情報交換と協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設において、身体拘束はいたしません。施錠においては、夜勤者が1人になるまでは施錠はしていません。ただし、ご利用者に帰宅願望が出たときには施錠する場合もある。	マニュアルに基づいて研修を行い「禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解して、拘束しないケアに全職員が取り組んでいる。日中は玄関も施錠せず見守りを重視して、外に出たような素振りの利用者には職員が付き添って閉塞感を覚えないようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待につながらないよう具体的な事例について送りやミーティング時に職員で話し合いを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内外において職員が研修を受講できる体制を整えられるように心がけています。当施設では、現在、おひとりの方が成年後見人制度を活用されている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族に対し、重要事項説明書の内容を全てご説明し、確認をしていただいた上で契約を結んでいます。後にも、不明点があれば、随時ご説明をさせていただき旨お伝えしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	サービス担当者会議や、ご家族が来所されたときにご利用の様子をお伝えし、ご家族の希望や要望もお聞きし、ミーティング時にスタッフにも伝え情報の共有に心がける。	利用者の意見・要望は、日々の関わりの中で些細と思われることも書きとめ汲み取っている。家族からは訪問時、又、運営推進会議にほぼ全員の家族の出席があり、活発な意見・要望が出され、運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝9時の申し送り、毎夕のミーティングを行い気付きや意見を聞く時間を設け、ディスカッションしている。改善提案や良い意見はすぐに対応している。 また、月に一度以上スタッフ会議を行い意見交換が出来る場を設けている。	管理者・ケアマネージャーと職員とのコミュニケーションは良く取れており、朝夕の申し送り時や・月末のスタッフ会議時に意見・提案が活発に出る。更に今月からスタッフ会議を月2回にし、個人面談も増やしコミュニケーションを深め、職員の意見・提案をより多くし、サービスの向上に繋げるようにした。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表は施設のイベントにも参加し、面談にて希望や目標等の聞き取りがありアドバイスや目標に向かっての支援がある。 管理者とは、定期的に会議を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外の研修については、スタッフが一同に受講できなため、個別体制を整えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	池田市民間型事業所連絡会IGHIに所属し、3ヶ月に1回の会合に参加し、施設の事例や討論会を行い、他施設とディスカッションし、交流している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に、ご利用者ご家族と面談を行い、希望や要望、不安やお困りごとをお聞きし、気持ちに寄り添い、当施設の事も理解や納得をされるまで、何度でも話し合いの機会を設ける。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に、ご家族に対し、興味・関心チェック表を用い、ご利用者の生活歴等をお聞きし、ご利用者が溶け込みやすいような環境作りをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者の、現存する能力を見極めたうえで、必要とする対応をミーティング時にスタッフと共に考えるようにしている。 ご利用者の情報は、スタッフ一同共有をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフはご利用者のご家族の気持ちとなり、ご自宅での生活と変わりなくお過ごしいただけるよう、その方の出来ることをお手伝い頂くようにし、必要な存在であると感じていただけるように声掛けに心がける。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にも施設に関わって頂き、協力を仰ぎながら、スタッフ共々、利用者さまを支えられるように、普段から様々な事柄に関わりを持っていただけるようお願いをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご近所のお知り合いや、旧友、遠方のご親戚など、大切な存在の方々を訪ねて来られたり、小さなお孫さんも来所されている。 ゆっくり寛いで頂けるような場所を提供している。	3～4人の友人や知人の訪問がある。大切な馴染みの関係が持続するように丁寧に対応・支援している。絵画の好きな利用者の要望に応じて職員が美術館に付き添った事もある。外食や墓参り等は、家族の協力を得て支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	時折、言い合いになったりすることもあるが、ご利用者同士の関係は良好である。 仲たがいがいい時には、スタッフがさりげなく間に入り仲を取り持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所のさいには、ご家族に困りごとや心配ごとがあれば、遠慮なくいつでも相談や、連絡してもらえるよう、お伝えしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	興味・関心チェック表を基に、ご利用者との会話の中から生活歴や好きなこと、趣味や興味のあることを聞き出せるようにし、ケアに反映させている。	入居時には本人・家族から生活歴や趣味・興味等を聞き取り、アセスメントシートを基に、その後のホームでの暮らし方の希望や意向の変化を日々の関わりの中で把握するように努め、介護計画に活かすようにしている。心身共にリラックスする散歩や入浴等個別ケア時に本音を聞き取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	興味・関心チェック表を基に、ご家族からも利用者さまの詳細な情報や、今までの経過の聞き取りをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェックや、目視での様子観察や、会話の中から、その日の状態の把握に努める。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者の状態を把握したうえで、ご家族も同席のサービス担当者会議を開催し、それを基に介護計画書を作成して3ヶ月に1度見直しをする。 状態の変更等がある場合は、その都度変更を心がけている。	本人および家族の要望と介護記録・アセスメントシート・モニタリングの結果等を基に、ケアマネージャーを中心に関係者がサービス担当者会議を開き利用者の現状に即した介護計画を作成し、3ヶ月毎に見直しをしている。状態の変化が生じたら、主治医に相談し即見直し・対応をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎朝の申し送り、毎夕のミーティングで情報交換を行い情報を共有し、記録を元に状態の変化等の把握、及び必要に応じて介護計画の見直しに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者の状態は日々変化するので、その時に応じた柔軟な対応をし、その日、その時に応じたケアの対応を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安心して暮らせるように池田市や自治会との連携を図りながら支援を行っている。 豊かな自然や歴史ある街を散歩し楽しんで頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の訪問医以外は、基本ご家族対応をお願いしているが、ご家族での対応が難しい場合は臨機応変に施設で対応している。 調剤薬局との連携も取れている。	契約時に家族・利用者の希望で決めており、協力医の内科は月2回・歯科は2週に1回往診を受けている。その他の医療機関へは家族の支援を原則としており、精神科には家族が付き添い適切に医療の支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	普段の様子と変化がみられた場合は訪問医の看護師に随時相談して指示を仰ぎ、訪問医に連絡が必要な場合は速やかに対処している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は、施設内での情報を提供し、退院時には事前に様子を見に行き、看護サマリーを頂くようにしている。 病院とも連携を取り、地域医療の相談員さんとも対話をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師、ご家族、施設管理者、ケアマネージャーと話し合いの場を持ち、看取り時にできること、できないことを丁寧に説明し、ご家族の思いもお聞きしたうえで、ターミナルケアの契約の締結を行っている。	看取りについて「ターミナルケア利用同意書契約書」を整備している。重度化したら医師や関係者と話し合い、事業所の出来る事・出来ないことを説明し、思いに沿ったターミナルケアの支援に取り組むようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網を貼り出している。 消防訓練のさい、消防の方から応急手当や、初期対応の教えを仰ぐ。 救命救急講習を未受講のスタッフに、順次受講してもらう。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や災害時は、町会の会員さんや、ご近所の方に、協力をお願いしている。 北神田町会には、ご家族が了承されている方のみ利用者さまの利用者情報を開示している。 消防署と連携をとり、訓練予定である。	年2回避難訓練を実施している。マニュアルは整備されており、水・カンパン・お米の非常食の用意がある。近所の人に声かけをしている。	年2回避難訓練を実施しているが、日頃よりミニ訓練を実施し、災害時に即応できるよう実践力を身に付けることや、運営推進会議で訓練の参加を呼びかけ、地域との協力体制の見直しを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩であるとの思いから尊敬や敬いの気持ちをもった対話や対応をスタッフ一同心がけている。	人格を傷つけないよう言葉遣いに気を付けている。利用者の誇りを損なわないよう、トイレ誘導など接遇マナーに配慮してお互い注意し合い支援をしている。個人情報の保護については、順守している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者おひとりおひとりとの対話を大切に話しやすい環境づくりを心がけ、思いと違うことを無理強いしないようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自宅での生活と変わりなくお過ごし頂けるよう、起床、就寝の時間を決めていない。日中のお昼寝も自由に行っている。何事も無理強いすることなく、ご希望を確認し対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者のお好みを普段の対話の中から把握し、朝の更衣時や、お出かけ時にはご自身のお好みものを選んでいただき、時にはアドバイスをさせてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前には、嚥下体操を行い、一品ごとにメニューをお伝えし、スタッフの声に合わせ「いただきます！」と発声していただく。下膳や片付けをご利用者と共に行っている。	3食クックチルドを使用しており、キッチンで盛り付けや味噌汁等簡単な調理をしている。職員は見守りをしながら一緒に食事をし、会話の中から好みや希望を聞き定期的に買い出しに出向き行事食やおやつ作りを楽しんでいる。家族と外食に出かけている人もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取を1300ccを目標とし、食事摂取量の記録も取っている。水分量、食事摂取量の過不足を把握し、適正量が摂れるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨きの促しの声かけをしている。ご自身で難しい方はスタッフが支援して行っている。月に2度、訪問歯科医の診察と口腔ケアを受診し、スタッフの気になることを相談している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者の排泄のパターンを把握し、必要な方には声掛けし、誘導している。 施設入居時、リハパン使用だったご利用者でパンツ使用に戻られた方もおられる。	6人が布パンで自立で排泄している。リハパンにパットの人等、声かけや誘導はその人に合ったさりげない見守りをしている。根気強い適切なトイレ誘導の結果、リハパンから布パンに改善し、自立につながった人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘改善に、水分補給や食事、おやつの内容に気をつけている。 水分は、1日1300ccを目標とし、普段の体操やレクにも便秘が解消に役立つものを取り入れたりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	同性介助を基本としているので、スタッフのシフト上1週間の入浴予定を決めていて、予定日に入浴して頂く。	週2回を基本として同姓介助のシフトに配慮して入浴できるようにしている。一緒に歌を歌ったりのれんをかける等、無理強いしないでリラックスして入浴してもらうよう支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご自宅での生活において、お昼寝の習慣があった方には、様子をみながら自室でお昼寝を促したり、夜間もリビングで眠そうのされてる方には就寝の声掛けをし促しを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	調剤薬局と連携を取り、皆さまの薬の管理をしてもらっている。 調剤薬局が1週間、個人別に1日ごとのケースに仕分けして用意していただき、服薬管理をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の有する能力を把握したうえで、掃除機かけ、モップかけ、雑巾がけ、洗濯物たたみ、食事の片付け等、その方の出来ることをしてもらっている。 嗜好品は、ご家族が来所のさいお持ち頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の散歩や、施設での外出レク、ご家族と外出されたりと、ご家族との関わりも大切にしている。	天気の良い日はほぼ全員が歩いているの散歩を日課として近くの河川敷や買い物に出かけたり、お花見や紅葉見物にお弁当を持ち五月山公園等に出かけている。利用者の要望で美術館に出かけたりもしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	当施設では、基本金銭の所持はしていただいておりますが、外出に機会には、ご家族に依頼し、お金をお預かりするようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者が書かれたはがき、手紙などは一緒に投函している。 ご利用者から電話の希望があれば、間を取り持ち、対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日当たりのいい場所に食卓を配置し、窓の外に季節の花を栽培し、居心地のいい空間であるように気をつけている。 トイレの場所が分からないご利用者のために大きく表示している。	玄関を入ると高い天井に梁をむきだして日本家屋の趣があり、皆が寛げる応接セットが置かれている。明るい窓際には食堂としてテーブルが程よく並べられており、壁に利用者の作品や掲示物で季節を感じられたり、トイレ・風呂等水回りは表示や暖簾で分かりやすく工夫し居心地良くしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓と、リビングのソファの配置に距離をとり、ご自身の好きな場所で寛げるよう工夫している。 居室でお過ごしの方には、食事やおやつ、レクの時には声掛けを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご契約のさい、ご家族にご利用者のお好みの物や、使い慣れたものをお持ちいただくように伝え、施設入所後も安心してお過ごし頂けるような居室作りを、家族と相談しながら行っている。	居室にはベッド・チェスト・ハンガーラックが用意されている。テレビ・椅子等使い慣れた家具を持ち込み仏壇を置いたり、写真やお花を飾り、趣味の編み物の道具などを持ち込んでその人らしく居心地良い居室づくりがなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内に手すりをつけ、安心、安全にご自身で移動してもらえるようにしている。 トイレや浴室には、目で見て分かりやすいように大きな文字で表示している。		